

# 令和4年12月定例会会議録

(令和4年12月23日)

八代市教育委員会

## 八代市教育委員会 12月定例会会議録

- 【開催日】 令和4年12月23日（金）
- 【場所】 八代市役所本庁4階 403会議室
- 【出席者】 北岡 博 教育長  
渡邊 裕一 教育委員  
奥村 留美子 教育委員  
早田 蛍 教育委員
- 【出席職員】 中 勇 二 教育部長  
橋口 幸雄 教育部総括審議員兼次長  
松川 由美 教育部次長  
田中 智樹 教育部理事兼教育政策課長  
田北 佳一郎 学校教育課長  
稲本 健一 教育施設課長  
高崎 博文 生涯学習課長  
櫻井 幸枝 教育サポートセンター所長  
松村 哲治 教育部理事兼博物館未来の森ミュージアム副館長  
丸山 尊司 経済文化交流部理事兼文化振興課長  
長船 征洋 教育政策課長補佐  
奥村 真士 文化振興課文化財係長  
山内 淳司 文化振興課参事
- 【事務局】 萩本 誠子 教育政策課教育政策係長  
浦本 美代子 教育政策課参事
- (審議事項) <議案案件>  
八市教委議第30号 八代市適応指導教室設置要綱の一部改正について  
八市教委議第31号 八代市教育委員会会計年度任用職員任用規程の一部改正について  
八市教委議第32号 八代市指定有形文化財の指定について  
<協議案件>  
協議第3号 令和5年度からの教育振興基本計画の進行管理と教育に関する事務執行状況の点検・評価の見直しについて  
<報告案件>  
① 報告第21号 八代市議会令和4年12月定例会について

② 報告第22号 令和4年度12月補正予算の概要について

1. 開会 (午後1時58分 開会)
2. 会議録の承認 令和4年9月定例会
3. 教育長報告 前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

4. 議題

北岡教育長 八市教委議第30号と八市教委議第31号は関連しているため、一括して審議を行う。

〈八市教委議第30号〉 八代市適応指導教室設置要綱の一部改正について

〈八市教委議第31号〉 八代市教育委員会会計年度任用職員任用規程の一部改正について

櫻井教育サポートセンター所長 平成28年12月22日付け28文科初第1271号「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律の公布について（通知）」を受け、八代市適応指導教室設置要綱の一部及び八代市教育委員会会計年度任用職員任用規程の一部を改正するものである。

奥村教育委員 国も具体的な細部にわたるまで検討されている印象があった。新たな体制になるということで良かったと思う。  
改正後の八代市教育支援センター要綱第9条第3項に、指導員の学校等への派遣とあるが、相談室のほかに学校から依頼があったときや関係児童生徒の件で学校に行く場合も派遣の対象になるのか。

櫻井教育サポートセンター所長 くま川教室としてはこのような状況は考えにくい、「学校等」とすることで広く対応が可能であるためこのように規定した。

渡邊教育委員 適応指導教室から教育支援センターに名称変更とのことであるが、30年もの間「適応指導教室」という名称を使用していたにも関わらず、保護者のなかには適応指導とは何か、または誤った理解やマイナスのイメージを持つということが少な

からずあっていただけと聞いている。「教育支援センター」はストレートなネーミングであり、全国的にも統一されているので、保護者の理解も得やすいのではないかと思う。

【議案第30号・議案第31号 承認】

〈八市教委議第32号〉 八代市指定有形文化財の指定について

丸山経済文化交流部 下記3点の文化財について、八代市文化財保護条例第4条第  
理事兼文化振興課長 2項の規定に基づき所有者の同意を得たうえで、同3項の規定に基づき八代市文化財保護委員会に対して諮問を行ったところ、いずれも指定するよう建議がなされたため、同条第1項の規定により、八代市指定有形文化財の指定をする必要があるものである。

●<sup>だるま</sup>達磨・<sup>うきかもず</sup>浮鴨図

●<sup>やばず</sup>野馬図

●<sup>せんき</sup>戦気

奥村教育委員 宮本武蔵の作品ということで、大変貴重な作品と思うが、今、指定の機会となったこと、また、指定されることでどのような利点があるのか、参考までにお尋ねしたい。

山内文化振興課参事 宮本武蔵関係の資料については、松井文庫のほか全国各地に存在し、日々研究が続けられており、その中でも国指定クラスに相当するという調査結果が出たものは国指定となり、都道府県指定、市町村指定も同様である。まずは、市町村指定としてしっかり価値を付け、さらに都道府県指定レベルで価値のあるもの、国指定レベルで価値のあるものとなると、上位指定となる道もあるかと思う。

指定に対しての利点については、例えば、作品が汚れたり破損したりした場合の修復費用について、未指定であれば修復費用は所有者の負担となるが、指定されている場合は、補助を活用することができる。

渡邊教育委員 どのような経緯で市の指定に諮問することになるのか。また、本市指定の文化財は何点ほどあるのか。

山内文化振興課参事 一般的な指定の手続きは、基本は所有者からの相談が発端となる。そのうえで、対象となる文化財の種別に応じて、各専門の先生方の調査、意見を踏まえて調査を行い、その結果をもとに市の文化財保護委員会に諮問を行う。そこで、指定の建議がなされた場合は、今回のような指定を依頼することとなる。文化財の種別によっては、専門の先生方の調査に時間を要する場合や、調査の結果、指定と判断するには不足するものがあるとの結論から取り下げとなる場合もある。今回の場合は、県内の美術工芸の先生方に調査をいただき、結果に基づき諮問を行ったところである。

市の指定の文化財の件数については、現在195件である。この他に国指定が12件、熊本県指定が27件、国の登録文化財として8件あり、総数で242件、市内に存在している。

奥村教育委員 所有者からの申告により検討が始まるとのことであるが、所有者のなかには、所有するものがどんな価値があるかを判断できない方もいると思う。文化振興課から、指定の申請の働きかけは行わないのか。

山内文化振興課参事 指定の手続きについて、不足する点があったため前の発言の訂正をしたい。所有者からの申告とともに、文化振興課からの働きかけにより指定の手続きに入る場合もある。所有者のなかには自分の所有する文物がどのような価値があるか不明な方もあると思う。文化振興課、博物館では、折を見て寺社や古文書の悉皆調査を行い、網羅的に調べている。その中で所有者の意向あるいは文化振興課の提案により了承をいただいた場合に、詳細な調査に移り、文化財保護委員会への諮問を行っているところである。

早田教育委員 宮本武蔵という誰でも知っている人物の絵画が八代市に存在し、ほかにも文化財に指定されていないものがあるのだと感じた。2月の教育行政先進地視察で小倉城を見学する予定であるが、宮本武蔵や松井家とゆかりのある城なので、小倉城で知識を深めるのが楽しみである。

#### 【議案第32号 承認】

北岡教育長 文化振興課は退席されてよいです。

〈協議第3号〉 令和5年度からの教育振興基本計画の進行管理と教育に関する

## 事務執行状況の点検・評価の見直しについて

田中教育部理事兼教 資料により説明  
育政策課長

奥村教育委員      いわゆる2つの流れの評価を一本化することについて、全く問題はないのか。また、これまで政策評価する際に、一覧表のなかに評価が困難なため空欄になっているという箇所があった。教育分野は目標として心の教育や育成を掲げるが、心の出来栄を何で評価するかはとても困難であると思う。しかし、教員は子供たちに豊かな心を育みたいとか人権意識を醸成したいという思いがある。このような評価しにくい点をどう評価するのか、その工夫はされるのか。さらに、評価基準を設けても評価が低いのではないかとか、達成できているのか評価の元になるものがそれぞれになるので、それぞれの評価が違う点を日常的に確認してはどうか。

田中教育部理事兼教 今回、見直しを行うなかで、教育委員会において教育大綱の  
育政策課長      次に上位にある教育振興基本計画に基づいて評価を行うことが、教育委員や市民の皆さまに説明していくなかで最も分かりやすいのではないかとということ、また、18の基本方針に各課の事務事業がひもづいていることから判断を行ったところである。こうなると、1つの課ではなく複数の課にまたがった基本方針となるため、それぞれの課が連携しながら評価を行うことになる。今回、第3期教育振興基本計画の18の基本方針について、数値目標を掲げたところである。それに沿って数値で見える化をすることが今回見直しを行ったところである。評価の基準は、数値を参考にすることになる。

〈報告第21号〉      八代市議会令和4年12月定例会について

中教育部長      12月定例会においては、5人の議員から次の6件の質問あった。資料により説明

① 橋本徳一郎 議員

・本市におけるジェンダー平等に向けた政策について

② 橋本隆一 議員

・幼・小・中学校におけるてんかん発作時の口腔溶液（ブコラム）の投与について

③ 堀 徹男 議員

・自衛官募集に関する市の取組について

④ 古島津義 議員

・八代市立幼稚園の規模適正化及び運営の在り方について

⑤ 北園武弘 議員

・児童生徒のスポーツ・文化活動における環境整備について

・G I G Aスクール構想に基づく取組の現状及び今後の方向性について

奥村教育委員

L G B T Qの児童生徒への対応について、ジェンダーレス制服の検討などは本人にとっては大変心が救われることだと思うが、その周りの子供たちについては心配である。かつてから人権問題やいじめ問題については、いじめなどにより疎外された子供は大変辛い思いをするが、学んだ結果、その子は強く自立できるようになる。しかし、周りの子については、その子をどう見るか、どんな言葉をかけるかについては、これまでの人権問題についても新たなジェンダー等の問題についても、教室に子供たちを迎える以上、その柱になるのは担任の先生であるため、担任の先生が誠実に対応できるような正しい知識としっかりとした実践例等も共有できるような整備をしてほしい。わずかでも看過するような雰囲気があるようならば、該当の子供も周りの子への心の影響も強くなると思われるため、指導の大切さを強く感じた。

また、I C T教育については進んでいるが、学校訪問等で学校に行くとパソコン室を使用していないとか会議でしか使っていないという話を聞く。新聞で、文科省がタブレットの普及によりパソコン教室をすぐに閉じるのではなく、新たなI C T教育に係る機器を備えた教室として活用してほしいと話しているという記事を見た。本市においてはどのような状況か。

中教育部長

現在のG I G Aスクール構想のなかで、1人1台のタブレット、大容量の通信をWi-Fiで行うこと、大型のモニターや電子黒板など、私たちが現在考えるレベルの整備は各学校、各教室でできていると思われる。これからさらに学校で活用が進み、それ以上のものが必要となる場合の場所ではないか。今のところ具体的なハード整備については示されていないようであるが、国の動向はしっかり把握しておきたいと思う。

北岡教育長

教室等が不足している学校は空いたスペースをどんどん活用したいと考える。1人1台のタブレットの普及によりパソコン室を使用しないとなると、すぐ活用したいと考える学校はたくさんあると思うので、国から早く示していただいた方がよ

い。その後に、新たな教室を確保するとなると、対応が難しくなる。

中教育部長

以前パソコン室で整備した環境が、現在はそれぞれの教室で、それ以上の環境ができあがっている。パソコン室を整備した際にはLANの配線、エアコン、スクリーンやプロジェクターを設置したが、現在は各教室に整備されている状況である。

渡邊教育委員

幼稚園のことで答弁がなされている。全国的に保育園等での虐待などが話題になっていて、幼児教育に関する様々な市民の見方があると思う。答弁のなかで基本方針について今年度内の策定を目指しているところがあるので、今年度内には定例委員会にも提案されると思うが、少子化が進む中で本当に公立幼稚園だけが激減しているのか。公立保育園、私立幼稚園、保育園、こども園はどのような状況なのか、データで知りたい。定例委員会に提案されるまでに示していただければと思う。

中教育部長

私立幼稚園は県の所管であるが、市全体としての状況は基本方針に入れるべきだと思うので、状況を把握したうえでの基本方針になるようにしたい。

早田教育委員

先日、公立幼稚園（松高幼稚園）を見学したが、子供たちが落ち着いているなど印象を受けた。保護者の思いは様々であるので、このような環境を望む家庭があるのだと感じた。自分の子供を幼稚園に通わせたいかと考えたとき、そうではなかった。おとなしく座って読み書きができるような技術的なことはできるようになる環境にあると思う。情緒を育てることを考えると、今の子供たちは「外で遊んでおいで」と言っても、なかなか遊ぶことはできず、家の中と庭だけで遊ぶような状況である。このような状況の中で、家庭以外の広いところで他者と関わりながら遊ぶことを望んで幼稚園や保育園に行かせたいという思いがあるので、公立幼稚園を希望したいという気持ちにはならなかった。選ばれる幼稚園を考えたとき、ICT活用した質の高い幼稚園教育を魅力的に感じる保護者がどのくらいいるのだろうか。家庭にテレビやスマートフォン、タブレットもあるなかで育てているので、そういったものから離したいとの思いがあり幼稚園などで育ててほしいのに、幼稚園でもICT機器を使用することを知っている保護者はどのくらいいるのだろうかと感じた。今後、基本計画を策定するなかで、こういったことも含め、選ばれる幼稚園を目指すという点も検討す



る必要があるかと思う。

また、八代っ子クラブとはこういった活動だろうか。

中教育部長

八代っ子クラブとは、以前、小学生の部活動は学校教育の一環であったが、それを社会体育化したものである。成績だけを目指す活動にならないよう、学校で行っていた部活動の良さを残しながら社会体育に移行するというこで、市や学校で、活動時間などの基準を決めて活動している。

早田教育委員

ICT教育日本一、学校情報化優良校100%達成を目指しているが、具体的にどのような状況なのかが見えないと思う。これを達成してから、今後どう変わっていくのか。ハード面は整っているのて、先生たちの動き、学校の実態が見えるとよいのではないかと思う。

中教育部長

学校情報化優良校の認定を受けて終了ではなく、これを取り組む過程で先生方が技術を習得し、子供たちの学びにどう効果を上げていくか、レベルを上げていくように取り組む必要がある。この認定は定期的に更新する必要があるため、日々努めていかないと維持することはできない。ICTを活用した教育が子供たちにどうメリットがあるかということに関しては、各学校で取り組む内容があるので、細かい部分については各学校の取組が重要になるが、サポートについては教育委員会で行っていく。取組結果の発信については、学校や教育委員会でも発信力を高めてアピールしていく必要があると思う。現状は、学校訪問でも分かるように、認定を受けているとはいえ、学校によって差がある。まだまだ発展途上の段階であるため、継続して推進していきたい。

早田教育委員

教育委員になって1年と経験が短いので、どういう立場で発言をしていいのかと考える。学校訪問でしか学校現場を見ることができないため、学校現場が見えなくても発言してよいのだろうか。学校現場のことを考えて発言すべきなのだろうか。

中教育部長

教職員出身の委員が3人いらっしゃるのて、現場を知らないて教育委員として発言できないのかということ、制度としては違う。教育現場に携わっていない方からの意見を行政組織に反映させるということて教育委員会の合議体の体制がとってある。それぞれの委員がそれぞれの立場から、学校現場、社会教育の現場を見たときに感じた意見を伝えていただきたいと考えて

いる。早田委員については、子育てをしている保護者として教育委員を務めていただいているので、子育てをするなかでの気付きや周りの保護者の意見などをストレートに伝えてほしい。それを受け止め、学校現場に反映していきたい。

奥村教育委員

中学校部活動が今後地域に移行していくが、先生たちが部活動を担当してくださることで、経済的にも時間的な融通などでも厳しい状況の子供たちを救っていただいていた部分がとてもあると思う。現在、そういったことも含めて調整中であると思うが、部活動で救われた子供も多かったなかで、こういった部分はどうなるのだろうか。良かった部分は社会体育化しても大切にしていこうと、学校や担当者が検討するなかにも含むことができるのか。社会体育に移行するのもいいが、経済的な部分で条件が整わない子供たちには、厳しい状況になるかもしれないという声を聞いたので、不安に思ったところである。

ICT教育日本一というのがとても重く感じるが、先生たちがどのように使えたら、子供たちがどのように使えたら日本一なのかなと思う。教育委員として初めて県の教育委員会大会に参加したとき、文科省の方の言葉に衝撃を受けた。タブレット等を子供たちが持っている数は、東南アジアの国々と比べても日本は最低ラインである。ところが、ゲーム機の所有と扱いはとても高く、学習に使うタブレット等はとても低いとのことだった。令和2年頃のことだったと思う。この頃はICT教育がだいぶ是正されてきた頃だと思う。八代の子供たちがどのようにICT機器を使えたらいいのだろうか。現場の先生たちは、試行錯誤して悩みながら進めているのだろうと思うが、今の学校現場の先生たちの声はどのようなものだろうか。

田北学校教育課長

中学校部活動の社会体育への意向については、取り掛かりは働き方改革であるのは間違いないと思う。中学校において、中学校の部活動を従来どおりのやり方ですると100時間を超える。平日4日間したとしても、2時間程度すると週に8時間となり、土・日は1日休むとなっているが、試合が入ると休むことはできず、勝ち進むと引き続き試合が行われることになり、教員が部活動を担うことが、過労死につながるような状況である。先生たちだけにこの負担を負わせることはできないだろうということから、せめて土・日だけでも地域の方に協力をしていただき、将来的には平日の指導も地域の方に担っていただきたいということが背景にあると聞かえている。具体的なことは示されていないが、将来的にはこのような見通しがあると

聞いている。自分自身、長らく中学校の部活動の指導をしたが、自分の子供と遊ぶ時間よりも責任を持って部活動の指導をするのが使命であると思っていたので、奥村委員が言われた「救われた子供たちがいるのではないか」というのは、まさしくそのような思いで指導してきたという自負もある。ただ、先生たちが命を削ってまで子供たちのために自分の人生を全て懸けてするということは見直す時期にきているので、子供たちにとって少し残念になるかもしれないが、先生たちの負担を軽くする時期にきているということである。ただし、スポーツ指導で子供たちを育成したいという先生もいらっしゃるの、そのような先生は、自分の勤務終了後、一地域住民として子供たちを指導できるような形での方向性を残していくながれのようなので、そのような形で子供たちに携わっていけないのではないかと思う。小学校部活動の社会体育移行でもそうだったが、今まで学校の先生が指導していたので、子供たちが試合で活躍した話などを先生たち同士で話すことができた。学校生活の中で子供たちに部活動での活躍をほめたりすることができ、勉強以外のところで救われたり、良さを認め合う場面もあったが、残念ながら地域に移行すると、そのような部分が失われる可能性が高いと考える。先生たちが、学校の勉強も子供たちのトラブルも文化、スポーツの活動も全て担っていくのは限界があるので、そこは受け入れ、良い形で八代の移行が進めていけたらと考えている。

I C T教育日本一について、最初の導入の頃から活用の仕方は日々変化している。パソコン導入時の目標と現在とでは変わってきていると思うので、現在言えることは、学力の一部として、ツールとして使いこなせないといけない時代にきているということが根底にあると思っており、どこの学校でも共通していることだと思う。文房具の一つとして使いこなす必要があるということである。スタディサプリでもそうだが、A Iの機能が個別際的な学びに導いてくれる部分がある。この子供はどの分野が苦手でどのような説明が必要か、次はどんな問題が適当かなど、これまで先生たちが一つ一つノートを見て判断していたことをA Iが導いてくれるという個別際的な学びの一つとしても期待されているところではないかと思う。子供たち一人一人が、自分の可能性を引き出す魔法の道具としての可能性を秘めている部分があるので、私たちも常々勉強しながら、さらにより良いものとして扱えるように学んでいく必要があると考える。

〈報告第22号〉 令和4年度12月補正予算の概要について

松川教育部次長

12月19日に可決されたものについて資料により説明

●人件費

●電気料

燃料価格高騰に伴う市有施設の電気料の不足額

●小学校施設整備事業

八千把小学校の多目的室等を普通教室に改修する工事に係る経費

●小学校施設トイレ改修事業

八千把小学校

●中学校施設整備事業

日奈久中学校受水槽新設工事

●新型コロナウイルス感染症対策事業（幼稚園端末整備）

奥村教育委員

35人学級に対応するための八千把小学校の教室改修工事について、学校によっては教室の不足も考えられると思うが、見通しとしては何教室くらいあるのか。

稲本教育施設課長

令和3年度にシミュレーションをしたところ、代陽小学校、太田郷小学校、松高小学校、植柳小学校、八千把小学校の5校について不足が見込まれた。八千把小学校以外の4校については、余剰教室を普通教室に転用できたため対応が可能であった。八千把小学校だけは対応ができなかったため、改修工事をするようになった。2教室不足している。

5. 連絡事項

教育政策課 教育行政先進地視察（2/21・22 豊前市・北九州市）

八代こども科学フェア・小学生プログラミングコンテスト表彰（1/8）

会計年度任用職員採用試験（1/21・22）

全国学校給食月間（1/24～1/30）

市長と八竜小児童との給食会（1/30）

学校教育課 2学期終業式（12/23）・3学期始業式（1/10）

修学旅行について

小学校駅伝大会（今年度より実施しない）

生涯学習課 八代市二十歳の集い（対象者1,057名）（1/8）

教育サポートセンター くま川教室カレンダー完成

くま川教室30年記念誌

年頭研修会（オンデマンド 1/5～1/10）

博物館 冬季特別展覧会 (2/3～3/12)  
小・中学生書写展 (1/13～1/15)  
小・中学生絵画展 (1/20～1/22)  
事務局 1月定例会日程確認 (1/26 10:00～)  
総合教育会議の議案について

5. 会議録署名委員の指名 渡邊委員・早田委員

6. 閉会 (午後4時07分 閉会)

令和 年 月 日

署名委員

---

---

記録者

---